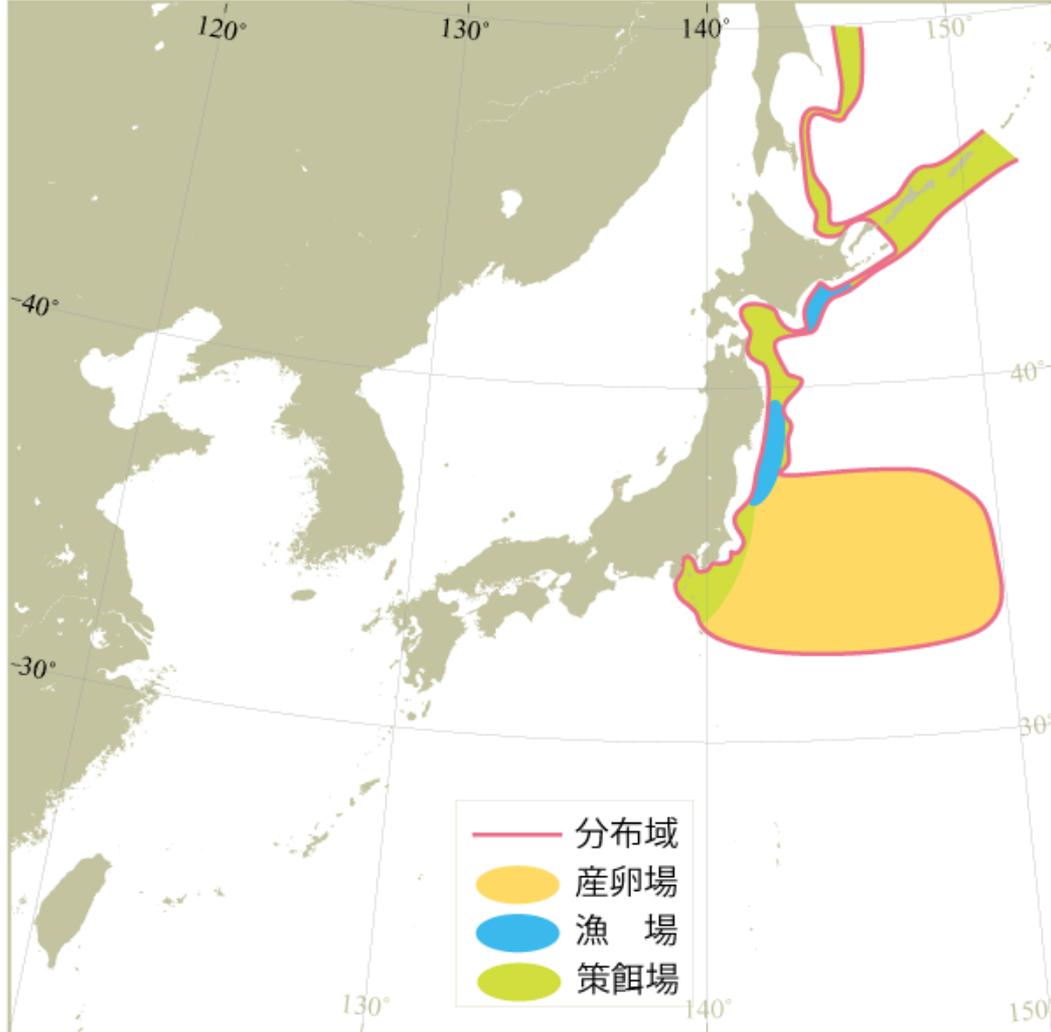




イトヒキダラ太平洋系群 令和3年度資源評価結果

生物学的特性

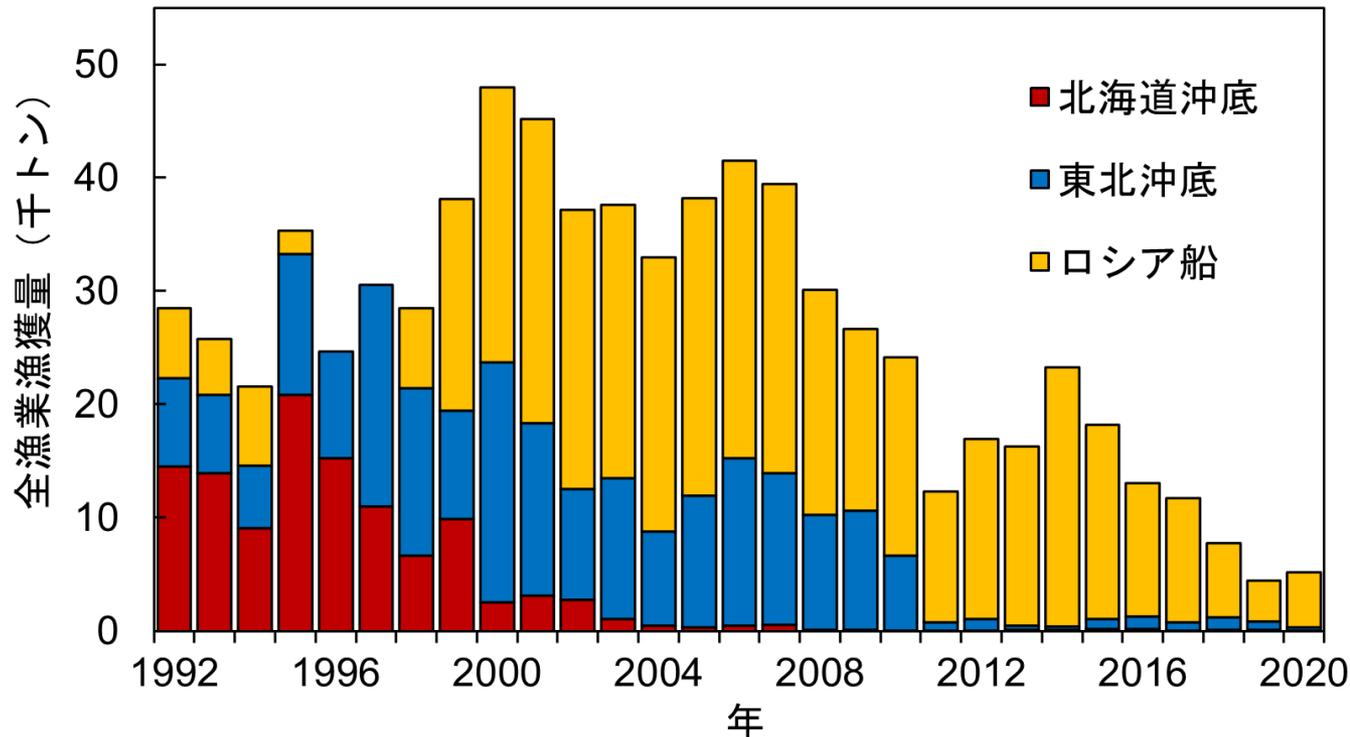


生物学的特性

- 寿命: 観察された最高齢は雄18歳、雌24歳
- 成熟開始年齢: 雄5歳、雌7歳
- 産卵期・産卵場: 2～4月に関東・東北地方南部の太平洋沿岸から東方の外洋域(黒潮～黒潮続流域)で産卵する
- 食性: オキアミ類やカイアシ類などの甲殻類、ヤムシ類、ハダカイワシ科魚類など
- 捕食者: ムネダラ等の大型ソコダラ類およびオットセイやマッコウクジラ、ツチクジラ等の海産哺乳類

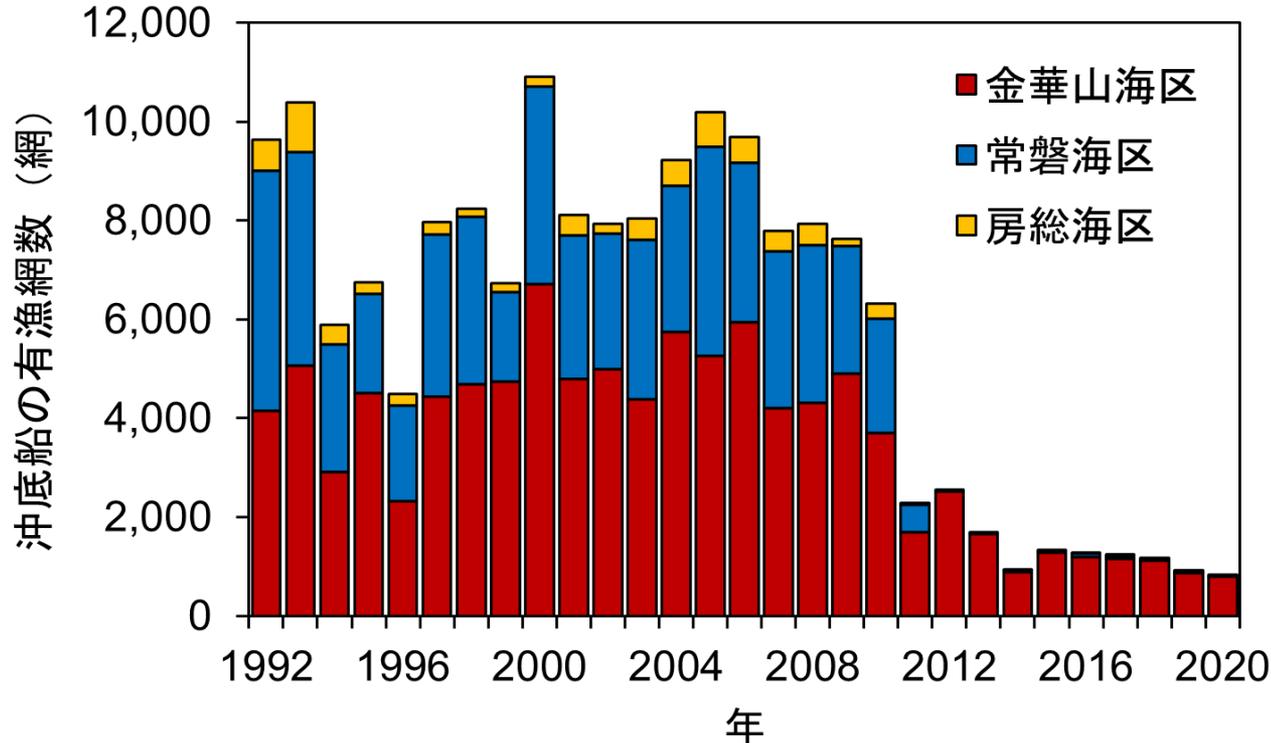
- 主漁場は東北・北海道の太平洋沿岸

漁獲の動向①



- 日本漁船の主漁法は沖合底びき網漁業（沖底）
- 北海道沖底の漁獲量は1995年をピークに急激に減少
- 東北沖底の漁獲量は東日本大震災の後大幅に減少
- ロシア船の漁獲量は2015年以降減少
- 近年の漁獲量は減少傾向 2020年の漁獲量：5,200トン
- 震災後は漁獲圧が非常に低い状況

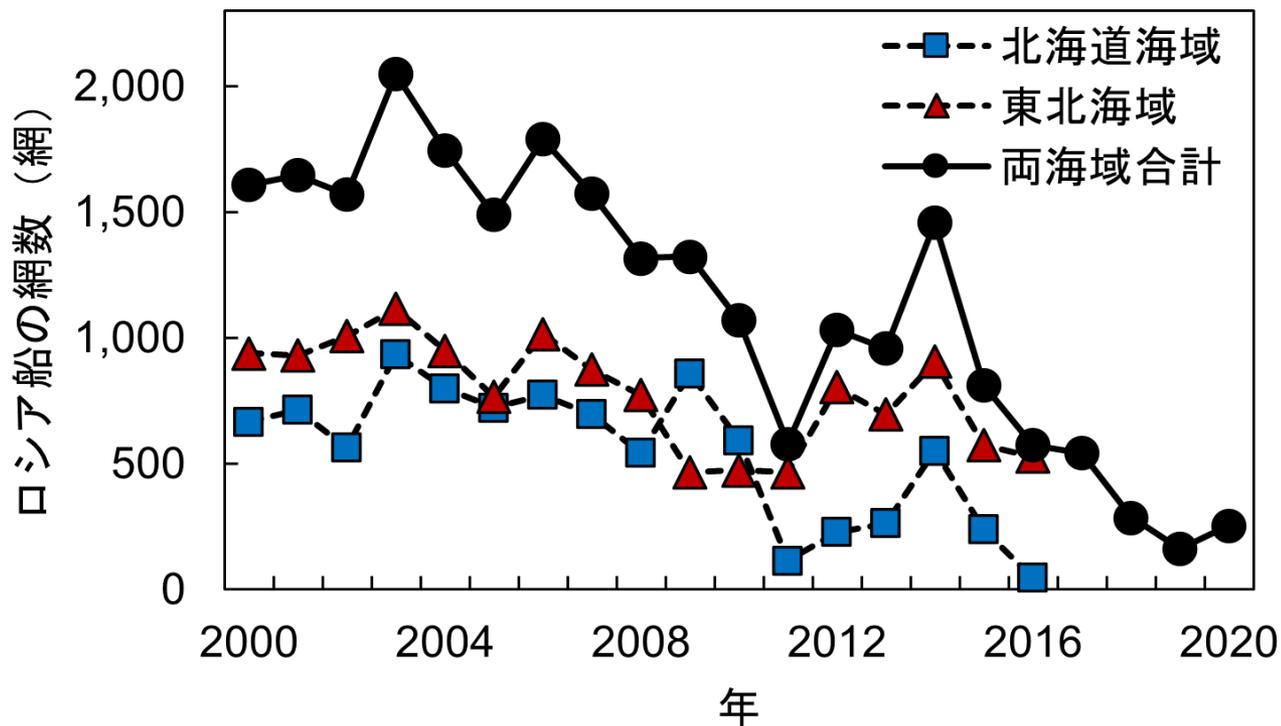
漁獲の動向②



※有漁網数：漁船ごとのイトヒキダラが漁獲された日の網数の合計

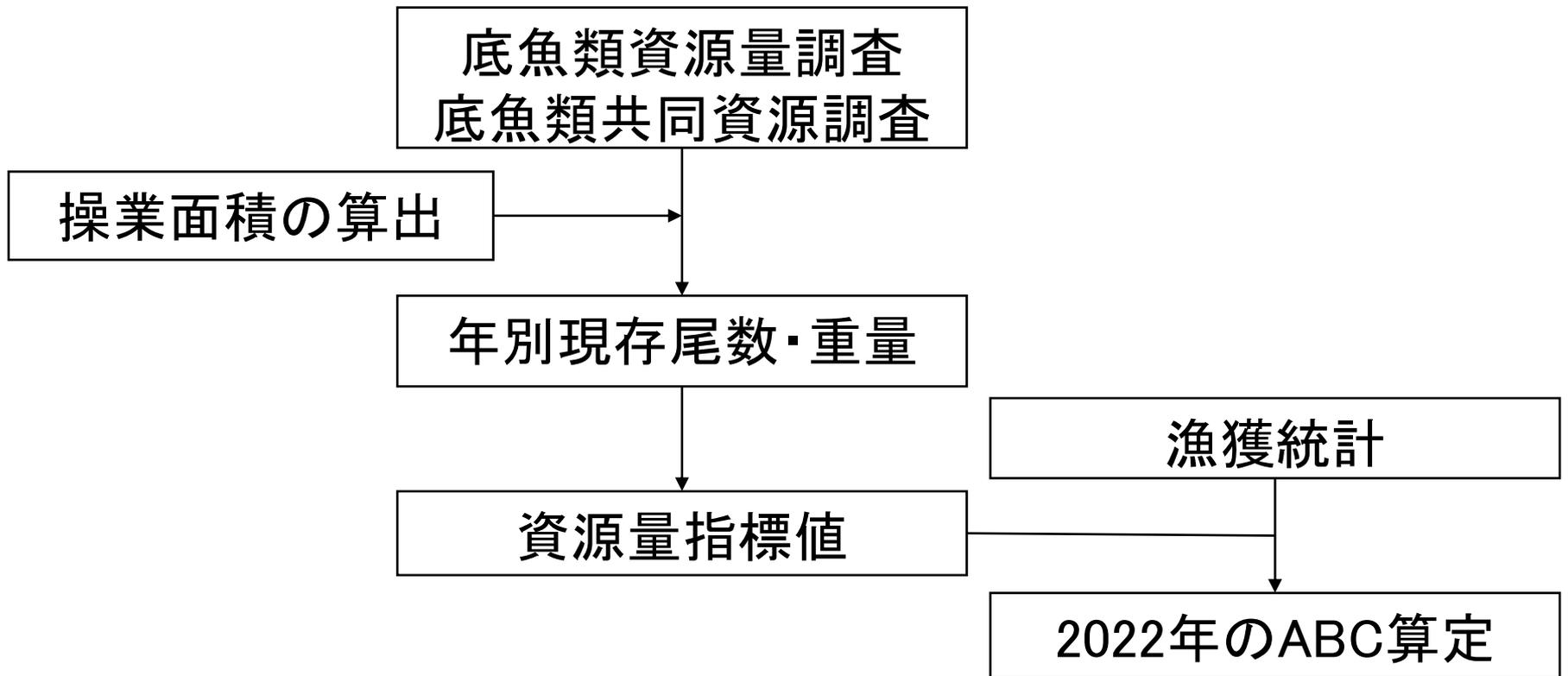
- 東北沖底の漁獲の大部分は金華山海区および常磐海区
- 東日本大震災ですり身加工場が被災して処理能力が低下、これに伴い東北沖底船の有漁網数は大幅に減少
- 2020年の金華山～房総海区の東北沖底努力量：840網

漁獲の動向③

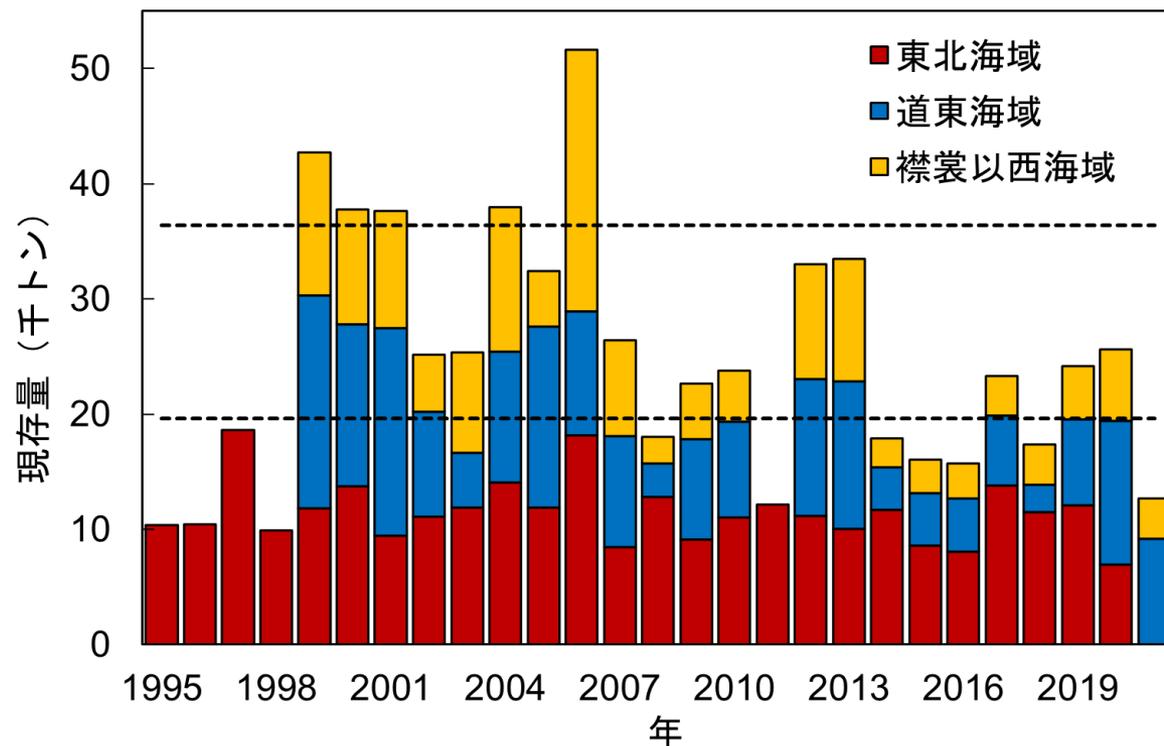


- ロシア漁船の漁法は中層トロールのみ
- ロシア船の努力量は2012～2014年に増加後、2015年から減少
- 2016年以前は海域別の網数情報が得られていたが、2017年以降は得られていない
- 2020年の網数は254網

資源評価の流れ



資源の動向



※破線は水準区分（低位／中位：平均の70% 中位／高位：平均の130%）を示す
（採集効率を1として推定した北海道～東北の現存量推定値で水準判断）

- 北海道および東北沖での着底トロール調査結果から判断
- 資源水準：2020年の現存量は25,639トンであり「中位」
- 資源動向：2016～2020年の現存量の推移から「増加」

資源評価のまとめ

- イトヒキダラ太平洋系群の資源水準は中位、動向は増加
- 着底トロール調査結果に基づいて資源状態を判断
- 漁獲圧が大幅に低下しているが資源回復には時間を要する

2022年ABC表

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・ ABClimit2021・ 1.18	Target	97	—	—
	Limit	121	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot C_t \cdot \gamma 1$ で計算
- $\delta 1$: 1.0 (中位水準で資源の枯渇リスクが低いと判断)
- C_t : 2021年のABClimit (= 10,200トン)
- $\gamma 1$: 1.18 (資源量指標値の傾きで決まる係数)